

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1273300317		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	〒284-0012 千葉県四街道市物井字金鑄塚1596-4 (電話) 043-304-7411		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 9人, 常勤換算	11.5 人

(2) 建物概要

建物構造	S造り (鉄骨造り)		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他	食費45,000円, 水・光熱費15,000円, 運営管理費20,000円, 行政手続き代行・行事参加・理美容・オムツ実費	
敷金	120,000円		有りの場合	有り(期間:2年間)
保証金の有無(入居一時金含む)	200,000円	償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	75 歳		96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林循環器クリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR四街道駅から車で10分ほどの距離にあり、周囲に自然が残る静かな環境である。経営母体は医療関連の仕事のほか、100件以上の介護保険事業所を全国展開している会社法人である。全国展開している複合型介護施設・そよ風のモットーは、利用者の思いや願いを大切に、気持ちに寄り添う支援をすることで、可能な限り一人ひとりの自己実現の達成を目指すものである。また地域で最初にオープンしたグループホームとして、介護保険制度に熱心な四街道市との連携や地域との協力関係が良好に保たれている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で理念の掲示が無いため改善課題となったが、事務所に掲示した。鍵をかけないケアは、職員の連携や工夫が足りず改善されていない。災害対策における近隣住民の参加を得た避難訓練と、職員全員の救命救急訓練は、まだ実現していない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者・職員は、自己評価の意義を理解して、項目毎の理解に加え自分たちが行っている仕事の再確認や新たな発見に努め、活発な意見交換をしてサービスの質の向上に努めている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議の場で家族から看取りに関する質問がでたことを受けて、看護師資格を持つ管理者が前向きに取り組み、医療関係者との良好な関係作りや職員・家族等との活発な意見交換を行っている。看取りの依頼をうけた入居者に対する訪問診療も行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	ソファの破れ、空調の不具合、塵の舞い上がりなど、指摘された改善事項は即刻対応している。コミュニケーション不足が原因する誤解と思える事項については、担当を替えて対応するなど、信頼の回復に向けた取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域で最初にオープンしたグループホームであり、地元住民の認知度は高い。1階にはデイサービスも併設されている。地域の夏祭りや小学校行事への入居者の招待があり、またホーム側では小学生の校外活動の受け入れも行っている。今後は、法人が経営するホテルを利用した旅行も計画中であり、地元ボランティアの参加なども考えている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全で楽しく家庭的」というホームの理念は簡単で誰にもわかりやすい。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	わかりやすい理念であることから、会議等で改めて話し合う機会はあまりない。理念の掲示は、事務所の中のみである。	○	理念が日々のケアに反映されているかどうか、機会あるごとに立ち返り、話し合うことが求められる。また理念は玄関やリビング等にも掲示し、職員だけでなく入居者、家族とも共有することが必要と思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入、夏祭り参加、小中学校生徒との交流などに努めている。家族と入居者の旅行に地域住民がボランティアで加わる企画もあり、地域住民との繋がりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解している。月1回のユニット毎のミーティングで仕事の再確認をし、新たな気づきや意見をサービスの改善につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者に運動する機会をもっと持たせるよう家族から要望が出たケースでは、室内歩行訓練や軽い体操を取り入れた。看取りに対するホームの方針作成については、運営推進会議で活発な意見交換がなされた後、看取りを前提とした訪問診療を始めたケースもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは、グループホーム立ち上げ時点から現在まで様々な相談、協力を行っている。主として各種申請、届出、運営推進会議の報告、市主催の100人規模の勉強会、ボランティアの募集などで、ホームのサービスの質向上にも繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の状況報告書を家族に送ったり、電話で連絡している。家族に心配が起きないように、連絡の取り方には気を配っている。こまめに写真や手紙、広報紙で様子を知らせることで、信頼関係の構築にも繋がると考えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、意見箱や家族会、運営推進会議や訪問時に聴取し、要望ノートに記録して対応している。最近では、ソファの破れ、空調の不具合、掃き掃除によるチリの舞い戻りなどが寄せられ、即対応した。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は極力少なくなるように努力している。入退職があった際は入居者に事情を説明し、顔馴染みの既存職員が間に入って新人が早く馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた年間研修計画などはないが、4週単位の育成マニュアルがあり、新人職員でも1ヶ月程度で一定レベルに到達できるよう訓練している。教育・訓練は介護の専門性を高めることに繋がると考え、できる限り研修に時間を割くよう努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は、系列グループホーム以外の同業者との交流がある。直接現場を目にすることでいろいろ参考になることが多く、ホームの検討材料にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設のデイサービス利用者が入居するケースが多く、本人と家族は入居前にホームと一定のなじみの関係が出来上がっている。またグループホームは、体験入居して住み心地を確認することもできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は入居者の気持ちに寄り添い、自立に向けた支援をしている。また経験豊かな人生の大先輩として、入居者から多くのことを学び、時間を共に過ごしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居の際、本人、家族から暮らし方の希望を要望ノートに書いてもらう。また、日々の生活でのかかわりの中から希望、意向の把握に努めている。		
<					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者・家族の意向や職員の意見および、申し送りノート・ミーティング等で抽出された課題を会議にかけて介護計画に反映させ、入居者がより良く暮らせるよう支援している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護支援経過記録にその都度記入し、毎月1回のユニット会議で評価している。また変化が生じるとその都度見直しをしている、		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの交流が盛んで、行事参加や囲碁を楽しんだりしている。また個々の趣味への個別支援も随時行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに通院介助等を希望する場合は、入居時にホームの協力医院へかかりつけ医を変更してもらっている。もとのかかりつけ医を継続する場合は、家族が付き添う。訪問歯科診療も取り入れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の家族から看取り希望があり、ホームとして検討した結果、実施することにした。看護師の管理者が中心となり、かかりつけ医に訪問診療を依頼する等、医療面での対応準備を進めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者本人の尊厳を損なわないよう、言葉掛けや話題作りに配慮している。個人記録等は事務所の鍵のかかる棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が好きな事を自由に出来るよう配慮している。起床・睡眠・食事・入浴等も、一人ひとりのリズムに合わせて、のびのびとした一日が過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片づけ等、個々の力に合わせて入居者と職員が共に行っている。誕生日には希望に沿って特別メニューや鍋料理の日もあり、食も進むようである。家族会の時に皆で鍋を囲むこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしている。入浴時間も自由で、嫌がる人も一日おきには入ってもらっている。一階のデイサービスは準天然温泉で風呂場も広く、月1回ホームの入居者も利用して温泉気分を味わっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はそれぞれの趣味や気晴らしを楽しんで生活している。趣味の囲碁を楽しむ、本を買いに行く、映画の好きな人は職員と映画館に行く、ベランダのプランターでいちごを栽培する等、さまざまである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブに出かけて季節の移り変わりを感じたり、産業祭り、外食、花火大会など、外出の機会が多い。デイサービスに送迎用のリフト付き車があり、それを利用出来る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階がデイサービスなので、ホームの玄関は二階にあり、ドアを開けるとすぐ階段になっている。従って危険防止のため施錠はやむを得ないと考えている。また非常口の扉も危険防止の為すべて施錠しており、非常時は事務所にいる一斉解除ボタンを押して開けるとのことである。		ホームの構造上、危険防止のため施錠がやむを得ないことは十分に理解できる。しかしながら入居者にとって、家を自由に出入りできないのは不自然なこととも言える。何らかの方法はないか、再度の検討が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。全職員は避難経路を把握しており、自治会からの協力体制も得られている。しかしながら夜間を想定した訓練の実施がされていない。		消防署より夜間の通報、避難訓練の働きかけがあったので来春に夜間想定訓練の実施を予定している。また、前回の課題である住民参加の避難訓練や職員の救急救命訓練についても継続して取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作成したものをを用いている。入居者の健康管理表には、バイタルと共に食事量、水分摂取量も記入されている。一人ひとりの状態に合わせて刻み食、ミキサー食などの対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく開放感があり、座り心地の良いソファが置かれ、思い思いに休息が出来るよう配慮されている。台所のカウンターは入居者の背丈に合わせて低く設計してある。また、トイレ・浴室のスペースもゆとりがある。いつでもコーヒーが飲めるようコーヒーマーカーが準備されており、よい香りが漂っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳使用の居室もある。趣味や馴染みの物が飾られていて居心地の良い明るい居室である。清掃は週二回とのことだが、やや掃除が不足しているように見受けられた。		清掃の回数や仕方の見直し求められる。